決算

◎令和7年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

◎令和7年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定について

◎令和7年度白石市病院事業会計決算の認定について

◎令和7年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

総括質疑

【質疑】一般会計は決算で6億7415万余円が歳計余剰金となり、実質単年度収支額は4489万余円の赤字計上であるが、令和7年度の財政運営についての評価は。

【答弁】歳計余剰金は令和6年度と比較して1億4187万2千円の増額となり、実質単年度収支は赤字になったが前年度と比較して2億2975万9千円の縮小となり、収支状況は改善が見られた。

主な要因は、市税の増加や道の駅整備事業に係る受託事業収入などで歳入総額が増加し、病院事業会計における経営基盤強化交付金終了に伴う繰出金の減などで歳出総額が減少したことである。

財源確保や歳出抑制に努め、財政調整基金の取り崩し抑制や減債基金への積み立てなど将来への備えにも対応しながら収支状況の改善を図ることができた。

◎令和7年度白石市病院事業会計決算の認定について

【質疑】指定管理制度を導入し3年目の決算となり、一般会計からの繰り出し額は前年より1億4713万円減額し安定した経営と地域医療の充実が図られているが、今後の病院の健全運営の課題は。

【答弁】指定管理開始当初から「断らない医療」をモットーに掲げ救急受け入れを行なってきた結果、指定管理開始前と比較し約2倍の受け入れ件数となった。またリハビリスタッフの増員や休床病床の再開で病床稼働率は常に90％を超えている。

このような積極的な経営努力により病院の医業収益は大きく改善しているが、昨今の物価高騰等により病院運営の大きな打撃となっている。今後も毎月「管理運営協議会」を開催し、指定管理者の経営状況等綿密な情報共有と連携を図り、持続可能な病院運営に取り組んでいく。



決算審査特別委員会

第64号議案・令和7年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定についてから第66号議案・令和7年度白石市病院事業会計決算の認定についての3議案は、定例会4日目（9月11日）の本会議において質疑が行われた後、議長および監査委員（四竈英夫）を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会（委員長・村上由紀、副委員長・大内卓也）は、9月18日・24日の2日間にわたり審査を行い、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決及び認定しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

◎白石市民バス運行管理事業・運営状況

【質疑】今後の運行に係る一人当たり行政コストの見込み、路線や便数について決算結果の分析は。

【答弁】人口減少が進み、今後も市民バス利用者の減少傾向が続くことが懸念される。この状況を踏まえ、利用者数の少ない便の削減や、ほぼ乗降者のいないバス停の廃止を含めた路線の見直しなど、効率的な市民バス運行を検討していく。

◎ふるさと納税推進事業

【質疑】ふるさと納税寄付金が令和6年度と比較すると寄付受入額、件数ともに減少しているが、主な要因と分析方法は。

【答弁】全国的に寄付受入額は年々増加傾向にあるものの、長引く物価高騰の影響によりトイレットペーパーや食用油などの日用品への寄付が集中し、本市の主力返礼品となる